

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和6年度第1回 理事会議事録

日時：令和6年2月19日（月）14:00-15:03

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、高橋 寛、竹下 克志、
田中 信弘、筑田 博隆、土井田 稔、永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、
根尾 昌志、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・波呂浩孝が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 審議・決議事項

①. 前回の議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

②. 名誉会員の推薦について

長谷川徹 元評議員を名誉会員に推薦し、その理由を述べた。一同承認した。

③. 千葉評議員への表彰式・記念品について

一般の理事会で承認済みの前EICの千葉一裕評議員への記念品（賞状のみとする）の案を提示した。いくつか修正点を確認してから一同承認し、4月の会員総会で表彰することになった。

④. 教育研修委員会：クリニカル・フェロー施設更新について

クリニカル・フェロー施設の新規申請が2施設、更新申請が12施設あり、一同承認した。

⑤. 新技術評価検証委員会：UBE_BESS 適正使用基準について

日本脊椎脊髄病学会（以下JSSR）・日本脊髄外科学会（以下NSJ）合同策定委員会にて作成した「複数オーダー式灌流型脊椎内視鏡（UBE/BESS/aFESS など）適正使用基準」（事前回覧済み）について意見を求めた。各意見を勘案して再度修正版を金村理事から理事会全員に回覧することになった。

さらに、腹臥位LIF working group の大和雄委員（浜松医科大学）から 同大学 坂野友啓評議員への交代を承認した。

⑥. メンバーシップ・コンプライアンス委員会：会員審査（1月分）について(西田理事)

1月の入退会について一同検討の結果、全員を承認した。

⑦. 広報委員会：賛助会員以外の企業からのJSSRホームページ内容の転載希望の件

賛助会員ではない株式会社AimedicoMMTから、当学会ホームページの疾患説明の内容(図表および文章)の転載許可申請があった。同委員会にてメール審議の結果、出典の明記、賛助会員ではないため有料としその金額は賛助会員会費と同額の10万円とすること、ただしバナー広告に協力いただける場合は無料とすることを決議した。

学会としては賛助会員になってもらいたい旨を先方に伝え、そのうえで賛助会員になってもらえない時には上記費用を負担してもらうことを承認した。

3. 審議・報告事項

①. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

SWJ2025各学会会長が使用できる準備金の使い方や項目、趣意書等に使う印の件、個別の会長招宴は原則会費制で行ないSWJからは支出しないことなどを報告した。

また、全員懇親会は事前予約制とするかを検討中で、参加費は他の脊椎系学会の例に倣い無料とする。学術集会の参加費は、医師は一律2万円とし、医師以外(学生・コメディカル等)は別料金とし今後金額を検討する。趣意書は6学会会長全員の氏名・学会名を掲載したものを基本とするが、企業からの希望があればフレキシブルに変えていく予定である。

SWJ2025の趣意書の配布は2024年夏～秋を予定し、2025年3月31日に締め切る。

SWJ2026の会議体が発足し、顔合わせや今後の進め方の確認を行なった。

SWJ2027の会長が集まり、場所は札幌で決定した。どの会場にするかは再度検討予定である。

②. 社会保険システム等検討委員会報告

令和6年度改訂に向けて要望項目の確認を行なったとして、新設と改正の一覧を提示した。

1月15日の医療技術評価分科会において二次評価で採択されたものとして

・K142-5 内視鏡下椎弓形成術の複数椎間加算 共同提案 日本整形外科学会

・K142-5 内視鏡下椎間板摘出(切除)術、内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎弓形成術(通則14の追加)

以上2点を説明した。今後、中医協の議論を経て承認される予定の項目については、引き続き委員会にて注視していく。

また、Kコードの整理を令和8年度に向けて行う。整形外科のみならず他分野でも整理を進め、令和8年度改訂のタイミングを目途に完了予定である。JOANR 解析の公式データを利用し、エビデンスとして提出する。

令和6年度改定結果の不合理・矛盾点については、意見提出の締切が5月予定なので留意する。

また令和5年11月1日より脊椎スクリー(可動型)・横穴付きの償還価格が下がるとの情報を共有した。

③. 国際委員会報告

2024 Spine Across the SeaについてNASS側およびJSSR側の各facultyの一覧を示した。会期中のスケジュールとプログラムも提示し、情報を共有した。

また、EUROSPINEとJSSRとの間で取り交わす予定のMOUの内容を示し説明した。今後修正して正式版とし4月のJSSR学術集会（横浜）で締結予定である。

TWSSとのMOUについても3月に締結予定である。

4月のJSSR学術集会（横浜）では、国際委員会としての招聘が13名、英語演題約120件、目玉としてコンバインドシンポジウムが行なわれ、国際色豊かになる。

今年のKSSSはJOA総会と日程が重なっていてスケジュール調整が厳しかったが、伊東理事が波呂理事長の代理として参加予定である。

④. 倫理委員会報告

前回理事会での報告以降、新規の学会主導研究の承認1件、実施中の学会主導研究の計画書変更2件の承認を行なった。

「頰椎後方術後外固定の有用性に関する多施設共同ランダム化比較対照試験」は、中央一括審査を千葉大学倫理委員会を担当した。本件についてはこれまでの学会主導研究とは異なり、学会が支援する研究との位置付けである。倫理委員会で計画書等の確認はしたが、審議は行わなわず費用も全額ではなく一部負担であることを確認した。

⑤. 新技術評価検証委員会報告

各WG 進捗状況を報告した。特にPVP WGは薬事承認済みで、保険収載に向けて企業が厚労省と協議中だが難航している。

腹臥位LIFは薬事承認に向けて企業がPMDAと協議中で、2025年秋頃の承認を目標としている。

「新技術の後発品」に対する学会（委員会）の負担が大きいため、今後学会としてどのように対応していくかについて議論がなされた。

⑥. データベース委員会報告

JSSR-DB 2022年度・2023年度の年次報告の進捗状況を示した。

2022年度の承認済みデータは158,330件で、JSSR-DB 2022年度年次報告は完成済。今後JSSR-HP公開とJSSR2024(横浜)での発表を予定している。

付随年次報告として、頰椎人工椎間板およびM&M レポート（側彎症学会）、脊椎内視鏡インシデントレポート（JOA・JSSR）も作成予定である。

2023年度分の登録数は1月31日現在で、114,932件となっている。

JSSR-DB リスクカリキュレーターについては、2024年4月からリスク因子入力項目設定を開始予定で、入力対象者は委員会委員の所属施設と協力施設とする。

NSJの症例30,000件をどのようにJSSR-DBに組み込んでいくのかについて議論がなされた。

⑦. 広報委員会報告

ホームページの更新について報告した。

⑧. その他の委員会報告

専門医制度委員会より

専門医基幹研修施設の更新審査を行ない、25施設中2施設については条件付きの承認、残りは承認とした。

⑨. その他

4月の評議員会へ向けて

来月には評議員会のアジェンダを理事会に示す。

第39回日本整形外科学会総会 シンポジウム案の採択について

JSSRの提案の中で、中村副理事長の脊髄損傷と再生医療についての案が採択されたとJOA事務局から連絡があった。

- ・ 次回の理事会開催日：2024年3月18日（月）14：00-16：00 Zoomにて

以上

令和6年2月19日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三